

第2回 スキルアップ研修会 in 筑波大

「表現遊び・表現運動・ダンスの指導

＝子どもたちから動きを引き出す手立て＝

講師 筑波大学 寺山由美准教授

11月30日（土）筑波大学中央体育館ダンス場において、第2回スキルアップ研修会を行いました。会員7名、一般7名の計14名が参加しました。講師は筑波大学の寺山由美准教授に「表現遊び・表現運動・ダンスの指導—子どもたちから動きを引き出す手立て—」という内容で指導をお願いしました。

1. 小学生の表現運動の研究をしている筑波大大学院生の指導

- （1）二人組のストレッチをして体をほぐす。
- （2）二人組でいろいろな動きをする。（小学生の動きについての紹介）
- （3）「魔法にかかったら命令どおりに動く」と約束して動く。タンバリンを使って・・・魔法をかける 『先生がみんなに魔法をかけてしまうよ』と声掛けをして全身で大きく動く、走る、止まる、ポーズ、倒れる、転がるなど、テンポよく動いたり、「〇〇〇〇になってみよう」と模倣をしたりする。

2. 寺山先生の指導

- （1）リズムダンス・・・いろいろなリズムに乗って、他の人の動きも真似てグループを作り、順番に、他人の動きを模倣（真似）しながら、いろいろなリズムにのって動く。
- （2）表現・創作
 - ・「人間と鏡」・・・人間・鏡相対する模倣（真似）
「人間と鏡」に分かれて向かい、向かい合った人の動きを模倣（真似）しながら動く。
 - ・「走ってタッチ」・・・動きにスピード感を持たせるために鬼がもう一人の背中をタッチしたら鬼を交代する。
 - ・「警察と泥棒」・・・イメージを合わせた動きの創作
3人組で、「警察と泥棒」になって、役を交代しながら即興で動いた。
警官や泥棒の動き方、気持ち、場所等をイメージすることで、動きの変化や他の人の動きの面白さを体験した。

3. 参加者から

- ・「ダンスの経験がなくどうやって指導すればよいかわからなかったが、楽しくできる方法やコツを教えてもらえてよかった」
- ・「楽しくリズムにのることの大切さを実感した。ダンスはふりを覚えることではないとわかりました」
- ・「今回の研修で学んだことを実践してみたいと思います。子どもたちの反応が楽しみです」
- ・「2回目の参加でしたが、前回と違う内容でさらに勉強になりました」

4. 研修を通して

寺山先生のお話をまとめると

- ① 表現を体育のダンスの単位だけでなく、授業の準備運動や短学活、帰りの会、レクリエーションの場でも展開してほしい。
- ② 表現運動は、何にもとらわれずに自分を表現すること、人を認めてリスペクトができ、共に動く楽しさを分かち合うことができる。

短い時間でも表現運動を継続して行うことで、子どもたちの自由な発想がふくらみ、友だちと共に活動することの楽しさを味わうことができ、一人ひとりの心を豊かにするものである、ということをお話しされました。

今回は2回目の実施となりましたが、寺山先生から「来年度も研修会を開催しましょう」という、うれしい言葉をいただきました。来年度も引き続き寺山先生の表現運動の研修を続けていきたいと考えています。